彩の国
埼玉県

平成29年 6月発行 第8号

埼玉県立 小児医療センターだより

●埼玉県立小児医療センター
〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200（代表） Fax▷048-601-2201 E-mail▷n581811@pref.saitama.lg.jp
URL▷https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/index.html

さいたま新都心から小児医療の新時代

病院長 小川（おがわ） 潔（きよし）

埼玉県立小児医療センターは昨年12月27日無事に病院移転を終えることができました。関係機関の皆様にはあらためて御礼申し上げます。

今回の移転により単独型から総合病院と連携する併設型小児病院となりました。設置母体の異なる２つの病院が対等な形で連携することは全国で初めてのことです。

当センターは埼玉県における唯一の三次の小児専門医療施設として、埼玉県における小児医療の最後の砦という気持ちで、「For the future, for the children」をスローガンに診療を行っております。今回の移転に伴いまして、体制を大幅に強化することができたと考えております。

強化いたしました第一は、さいたま赤十字病院の産婦人科と当センター新生児科の連携による総合周産期母子医療センターです。すべての胎児の生まれつきの病気、早産などによる非常に小さな低出生体重児の対応に加え、お母さんの突然の大量出血やその他の合併症にも対応可能となりました。新生児集中治療室（NICUと呼んでいます）を15床から30床に、新生児治療回復室（GCUと呼んでいます）を27床から48床に増床いたしました。今まで多くの赤ちゃんが東京都をはじめとする県外に搬送されていましたので、これからはそのようなご不便をかけなくてよくなると期待しているところです。また県内の主な産科機関とオンラインで胎児の超音波画像のやり取りができる遠隔胎児診断システムを取り入れました。

二番目は小児救命救急センターの設置であります。お隣のさいたま赤十字病院の高度救命救急センターと連携し、新生児から高齢者まで対応できる救急診療拠点が新都心に設置されたことになります。小児集中治療室は、今回新たに14床が設置され、大きな手術後の管理や重篤な救急疾患などに対応いたします。

三番目は高度医療提供体制の充実です。当センターは、小児領域の外科系診療科がすべてそろっているところが大きな特徴です。十分に手術ができるようにするために、手術室を中央部門に２室増室し７室に、新生児集中治療室内に１室、外来手術室を１室と、計９室に増やしました。その中に、内視鏡専用の手術室や手術とカテーテル治療を同時に行うことのできるハイブリッド手術室を設置いたしました。

四番目は小児がん拠点病院としての体制強化であります。小児がん拠点病院は全国15施設、関東では４カ所が指定されています。新病院では造血幹細胞移植のために無菌室を４床、準無菌室を４床に増床いたしました。当センターは全国で最も多くの小児がん患者さんの診療を行っています。

五番目は感染専用個室を18室設置して、小児感染症への対応を充実させました。

通院、入院している子どもたちの療育環境を少しでも向上させるため、明るく広い病室と院内各所にホスピタルアートを整えました。家族滞在施設であるドナルドマクドナルドハウス、けやき特別支援学校など、入院中の子どもたちやご家族の支援にも力を入れています。

今後も引き続き皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより 第８号 ご案内

○ 病院長あいさつ ……p. 1
○ 診療科のご紹介 ……p. 2
○ 部門紹介
　集中治療科 ……p. 4
　救急診療科 ……p. 6
　看護部 PICU・HCU ……p. 7
○ お知らせ
　受診のご案内・アクセス方法など ……p. 8

診療科のご紹介

代謝・内分泌科

副病院長
望月　弘

形成外科

副病院長
渡邊　彰二

放射線科

病院長補佐
小熊　栄二

総合診療科

科長兼副部長
田中　学

新生児科

科長兼部長
清水　正樹

代謝・内分泌科

科長兼副部長
会津　克哉

消化器・肝臓科

医長
岩間　達

腎臓科

科長兼副部長
藤永　周一郎

感染免疫・アレルギー科

科長兼部長
川野　豊

血液・腫瘍科

科長兼部長
康　勝好

遺伝科

科長兼部長
大橋　博文

循環器科

科長兼部長
星野　健司

神経科

科長兼部長
浜野　晋一郎

精神科

科長兼副部長
舟橋　敬一

小児外科

科長兼副部長
川嶋　寛

心臓血管外科

科長兼部長
野村　耕司

脳神経外科

科長兼部長
栗原　淳

整形外科・リハビリテーション科

科長兼副部長
平良　勝章

形成外科

医長
渡辺　あずさ

泌尿器科

科長兼部長
多田　実

耳鼻咽喉科

科長兼部長
浅沼　聡

眼科

医長
神部　友香

皮膚科

医長
玉城　善史郎

小児歯科

科長兼副部長
髙橋　康男

集中治療科

科長兼部長
植田　育也

救急診療科

科長兼副部長
福島　亮介

外傷診療科

医長
丹野　翔五

麻酔科

科長兼部長
蔵谷　紀文

放射線科

科長兼部長
小熊　栄二

病理診断科

科長兼部長
岸本　宏志

臨床検査科

部長
中澤　温子

＜部門紹介＞

集中治療科

集中治療科　植田育也（うえたいくや）

このたび、さいたま新都心への移転に伴う病院の新たな事業として、小児急性期医療に関わる機能の拡充が行われました。救急診療科、集中治療科、外傷診療科といった急性期医療に携わる専任医師の配置と、小児救命救急センターとして24時間体制で重篤な救急患者の受け入れを行う救急外来(ER)、小児集中治療室(PICU)および準集中治療室（HCU）の設置がそれです。本項ではこのうちの「集中治療科」についてご説明致します。

○診療内容

集中治療科は、小児集中治療室（PICU）および準集中治療室（HCU）にて、生命に関わる重篤な状態に陥っている患者に対し迅速かつ的確な高度救急医療を提供します。集中治療科の診療の柱は以下の３つのカテゴリーです。

① 埼玉県内全域および隣接地域の小児の３次・救命救急医療。

② 開心術等大規模な手術を受ける患者の周術期管理。

③ 院内患者の重症急変時の集中治療および院内危機管理（院内心停止への対応やRRS[注1]）。

注１：RRS（Rapid Response System）とは、あらかじめバイタルサインの異常などの基準を決め、その基準に抵触した場合は、医療者は誰でも、主治医を介さず直接RRS対応チームを呼び、迅速な介入により院内心停止を防ぐ仕組みです。

○先進医療・特殊医療

人工呼吸管理：高流量鼻カニュラ、非侵襲性人工換気法、高頻度振動式人工換気法、
気道圧開放式人工換気法、一酸化窒素吸入療法、腹臥位換気法、
体外循環式呼吸補助

急性血液浄化：持続血液透析ろ過、血漿交換、血液透析

循　環　管　理：体外循環式心肺補助

中枢神経管理：脳圧・脳温モニター

○対象疾患

緊急気道（クループ、気管狭窄、気道異物、各種の挿管困難等）
呼吸不全（細気管支炎、重症肺炎、喘息重積、急性呼吸窮迫症候群：ARDS等）
ショック（脱水症、出血性、敗血症性、アナフィラキシー、心筋炎、開心術後等）
意識障害（熱性けいれん重積、感染性髄膜炎、ウィルス性急性脳症、頭部外傷、動静脈奇形、脳腫瘍等）
外因性疾患（窒息、溺水、熱傷、多発外傷、薬物中毒、院外心停止等）

○治療方針

小児集中治療室（PICU）および準集中治療室（HCU）には、小児の集中治療の専門医が24時間体制で常駐し、主治医として全ての患者に責任を持った診療を行います。元からの主治医のいる患者、手術の執刀医のいる患者についてはそれらの医師と緊密に連携し、共同で診療を行います。そして生命に関わる重篤な状態を脱し、一般病床に出られる状態に回復するまで診療します。

もちろん、小児専門の集中治療室ですので、重篤な状態の小児患者本人や保護者の苦痛・不安をなるべく軽減できるように、集中治療科医師のみならずPICU・HCU看護師や関連職種と共にチーム一丸となって努力して行きます。

○院外の皆さまとのつながり

生命の危機に関わるような重篤な状態の救急患者様を診療されている場合は、24時間いつでも当科までご連絡いただければ、ドクターカーを使った依頼元医療機関への迎え搬送も含めて、対応致します（既に診断がついており、状態が安定している場合は、従来通り当院の各診療科へご相談ください）。

また、救急診療科、集中治療科、外傷診療科では、小児の救命救急・集中治療の研鑽を積みたい医師を募集しています。随時、見学・相談が可能です。興味のある方は、下記のＥメールアドレスまでご連絡ください。

連絡先　**埼玉県立小児医療センター　集中治療科　科長兼部長　植田育也**
E-mail : ueta.ikuya@scmc.pref.saitama.jp

救急診療科

救急診療科　福島亮介（ふくしま りょうすけ）

救急診療科は、平成28年12月27日のさいたま新都心への病院移転と同時に集中治療科とともに診療を開始した新しい科です。４月１日からは外傷診療科が加わり、３科合同で救急外来（ER）における救急集中治療を担っています。旧病院の救急外来は原則当院かかりつけの患者さんに限られていました。さいたま市とその周囲の地域は救急搬送の受入先医療機関が限られ、病院選定に時間を要するため救急隊の現場滞在時間が長くなる傾向にありました。外因性の疾患に関しても受入先医療機関が限られていることが救急の現場では大きな問題の一つでありました。病院移転後、救急診療科では積極的に外傷患者さんの受入れをおこなっており、診療を開始して以来相当数の患者さんが救急搬送されています。

対象とする患者さんは、①他院での受入れが困難な場合、②病院前救護において救急隊が３次対応を必要と判断した場合、③２次医療機関で継続診療が困難な場合であります。緊急度、重症度の高い状況ではかかりつけの患者さんでなくても積極的に受入れをしています。また、当院ERでは専従看護師によるトリアージシステムを導入しており、患者さんの緊急度に応じて診療順を調整し医療資源の適切な配置に留意しています。かかりつけの患者さんでも当院での救急対応が不要と考えられる場合には近隣の医療機関を受診していただくこともあります。

小児医療センターERは他施設にはあまり見られない下記の特徴を有し、小児救急医療を展開しています。

１．ER専従医の常駐

24時間365日小児救急専従医を配置しています。救急診療科、集中治療科、外傷診療科からなる専従医師がＥＲに常駐し、院内各専門科医師と連携し救急診療に当たっています。

２．さいたま赤十字病院の高度救命救急センターとの診療協力

隣接するさいたま赤十字病院の高度救命救急センターと連携を取っています。以前からさいたま赤十字病院は重症外傷などの小児を積極的に受入れており外傷への外科介入の経験が豊富です。現在も小児患者の重症外傷はさいたま赤十字病院へ搬送されることがありますが、初期診療の段階から当院スタッフが出向き、協力して診療に当たっています。また、さいたま赤十字病院の高度救命救急センターの医師が当院ERへ派遣されることもあります。

３．ドクターカー

さいたま赤十字病院と診療の連携をするのみでなく、病院所有のドクターカーによる医師の現場派遣も連携して行っております。アナフィラキシーや痙攣重積など緊急度の高いケースに対し出動し、成果を上げています。

以上のように恵まれた診療環境の中で、疾患にとらわれず迅速、かつ的確な診療を行い、“絶対救命”をモットーにし“防ぎえた死”“防ぎえた後遺症”を少しでも減らすように医師のみならず看護師含め医療スタッフ一丸となって、さいたまの子どもたちのために日夜努力しています。

診療においてお困りのことがございましたら、小児医療センターERへいつでもご相談ください。

看護部　PICU・HCU

４Ａ病棟

４Ａ病棟は小児集中治療室（PICU）です。心臓外科・循環器科の患者さんが入室するＰ１（５床）と外科や脳外科の術後の患者さんや内科系の患者さんが入室するＰ２（９床）、計14床の病棟です。生まれたばかりの赤ちゃんから高校生までを対象としており、ほとんどが全身管理が必要な患者さんです。無事、全身状態が落ち着きHCUや一般病棟に患者さんが戻れるよう看護を提供しています。また、手術はもちろん、緊急入院する事もあり、本人・ご家族の不安は大きいので心のケアも大事にしています。

４Ａ病棟師長　岡崎智美

【PICUのご紹介】

PICUには、気道、呼吸、循環、意識状態の悪化による全身管理や手術後の集中治療を必要とする患者さんが入室しています。また第三次医療を必要とする患者さんを病院間搬送しています。高度な治療や医療機器も多く、各専門分野の医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、保育士など、様々なスタッフが家族と共に生命の危機状態にある患者さんの回復する力を支援しています。

（４Ａ病棟主任看護師　中島美幸）

４Ｂ病棟

４Ｂ病棟（HCU）は計20床の病棟です。新病院オープンにより新たに開設されました。対象は心臓外科を除きPICUとほぼ同じですが、PICUと一般病棟の中間的な役割を担っています。PICUから回復しつつある患者、または一般病棟から状態が不安定になった患者、ERからの救急患者などを一手に受け入れており、各部署を結ぶ拠点となっています。緊急入院の約７割は夜間入院となっており、地域の小児救急を支え、子どもと家族が安心して医療を受けられる小児救命救急センターの一部署として貢献していきます。

４Ｂ病棟師長　橋本淳子

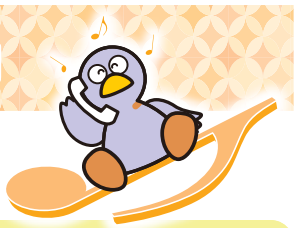
【HCUのご紹介】

HCUには、手術後の全身状態管理や、呼吸サポートを必要とする患者さんなどが入室しています。状態が安定して一般病棟へ短期間で移る患者さんが多い反面、在宅へ向けた支援を必要とする患者さんもいます。多様な看護が求められ、やりがいのある病棟です。急性期から慢性期の看護や在宅支援など多岐に渡った知識や技術が求められるため、子どもとご家族のために学び、皆で頑張っています。

（４Ｂ病棟主任看護師　鈴木愛）

お知らせ

医療機関の皆様へ　受診のご案内



①患者ご家族からのご予約

紹介元医療機関 → 紹介状（診療科が明記されているもの）

患者さん予約の電話 →

予約センター
受付時間（9時～17時　土日祝除く）
一般外来
☎048-601-0489
保健発達部門
☎048-601-2165

患者さん来院 →

予約当日にお持ちいただくもの
①保険証
②医師の紹介状
③母子健康手帳
④医療券
（公費負担を受けている方）

②医療機関の先生からのご予約・お問い合わせ

紹介元医療機関

→ **緊急診療（当日診療）の場合** → 電話交換手へ緊急性があることをお伝えください（365日24時間対応可能）

→ 診療科が明確な場合はその**「診療科医師」**へおつなぎしますので、ご相談ください

→ 休日・夜間又は、診療科が不明確な場合は**「救急診療科医師」**へおつなぎしますのでご相談ください

小児医療センター　代表電話
☎048-601-2200

→ ・当日の受診ではないが早期診療が必要な場合
・紹介状の診療科が不明確で相談したい場合

→ 電話交換手へ相談内容をお伝えください
受付時間（9時～17時　土日祝除く）

→ **「地域連携室」**が対応します
まずは現在の症状が分かる診療情報提供書をFAXで送っていただき、調整の上ご連絡します
FAX番号 048-601-2237

病院へのアクセス

■公共交通機関をご利用の方

- JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
- JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分

※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- 駐車場は有料になります。
- 機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。

※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。
できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。